

第8回 定期総会開催

活動強化と団結を確認

— 会員・家族43名が参加 —

室蘭地方腎友会の昭和五十九年度定期総会が去る五月十三日(日)、室蘭市東町の弥生集会所で開催された。

当日は会員、家族四十三名が参加し、午前十時に新日鉄病院の腎移植者、佐藤道美氏を議長に、日鋼記念病院の保坂弘美氏を書記に選出し議事に入った。

初めに佐藤利國会長から挨拶があり、その中で医療行政について、「現在、健保改善に対して国会請願や厚生省折衝をしている段階ですが、内容的にかなり厳しい情勢にあるが、今こそ私達が団結し打破しなければなら



会長の挨拶を聞く会員と家族



発行所
室蘭市本輪西町4-9-1
佐藤昇宅
室蘭地方腎友会
印刷所
室蘭市母恋駅前
マンションデパート2階
室蘭PR印刷

昭和59年4月1日現在	
会員数	84名
透析患者	80名
腎移植者	4名
計	84名

昭和59年度 室蘭地方腎友会役員

幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事
篠原健一	大槌洋子	合田晃	関綾子	森哲郎	鈴木勝	佐藤昇	石井俊光	佐藤利國	佐藤利國

反対する「国会請願署名、募金」実施の結果および会長、事務局長の国会請願参加報告、さらに、昨年九月十八日に行なわれた「腎バンク全国一斉街頭キャンペーン」の報告があり「腎バンク……」については、室蘭、登別、伊達の三市四カ所を実施し登別市長をはじめ、室蘭、伊達市助役、室蘭、登別市議会議員ライオンズクラブ、ロータリークラブ、NHK、新聞各社のご協力により、登録者六十七名と大きな成果をあげたことを報告した。

また、昭和五十七年十二月に室蘭市議会で採択された「US腎対策」「腎疾患総合対策」の早期確立についての経過、「社会復帰」の問題、また「組織活動」等の報告があり、収支決算報告

とともに可決承認された。次に、昭和五十九年度の活動方針(案)が事務局長から提案され「現在の医療保険制度を維持していくには私達自身が地域活動を推し進め、行政に訴えて行かなければならない」と今後の活動強化について述べ、予算(案)規約一部改正と共に可決承認された。

また、会員から「連絡を円滑に伝えるために、各病院に掲示板を設置してほしい」と提案があり、事務局は「予算がつかない設置したい」とのことであった。

最後に昭和五十九年度の役員紹介があり盛会裡に終了した。

私たちの念願かなう

「北海道腎臓バンク」と 「北海道腎臓移植センター」開設

私達は「北海道腎臓バンク」の設立を国会および道議会へ申請してまいりましたが、五月二十八日に、北海道財界の方々の努力により集められた三千万円を基本財産として、「財団法人北海道腎臓バンク」が開設されました。

また、「腎臓移植センター」が、八月一日、関係者の努力により市立札幌病院に開設されました。

これで全国並の組織が整備されたわけでありませんが、今後は、医療・行政・患者会が連絡を密にして、道民へ「腎臓バンク」の啓蒙活動を行なうとともに、脳死の問題、ドナーカードの自動

車運転免許証同時携帯の問題、他臓器移植とのかかわりも含め道民のご理解とご協力を得ることが必要条件であります。

今後皆様のご協力により、「腎臓バンク」への登録運動を押し進めてまいりたいと思えます。



8月12日室蘭に到着し、丸井前で登録を呼びかけた参加者とキャラバン隊

全道一周キャラバン キャンペーン

「北海道腎臓バンク」「北海道腎臓移植センター」の開設を記念して、「全道一周腎臓提供登録キャラバン・キャンペーン」が行

難病連室蘭支部設立 患者・家族集会

医療・行政・指導機関等140名が参加

去る六月二十三日(土)、室蘭・登別保健センターにおいて午後一時より、一四〇名の参加者を得て、難病連室蘭支部設立患者家族集會が開催されました。

病名や苦しみの違いはあれ、原因が究明されず治療法も確立されていないために苦しみからのがれることが出来ません、この苦しみから脱出するためにも、

なわれ、その第一キャラバン隊は七月二十四日釧路方面の道東へ、第二次キャラバン隊は函館方面の道南を回った。

「腎臓バンク」「腎臓移植センター」が開設されたが、欧米に比べると登録者が少なく、その意味でも道民の皆様のご理解とご協

私たちが生きている間はお互い助け合い励まし合って生きていこうと、室蘭支部を発足しました。

当日は、医療・行政・指導機関など、来賓の方々が四〇名出席して頂いたことは、私たち患者・家族にと

つて、どれだけ励みになったか計り知れません。

今後ともご指導とご協力のほどお願い致します。



当日行なわれた、室蘭市立総合病院安齋院長の講演

腎臓バンク拡大全国一斉

街頭キャンペーンに

ご協力ありがとうございます。

ございました。

病院紹介

伊達赤十字病院

洞爺村、長万部からも
元気に通院しています

伊達赤十字病院は、昭和十五年に設立し、北海道の湘南海岸といわれる有珠海水浴場も近く、大変に環境の良い所です。
同病院は、医師三十一名、看護婦一九五名で、ベッド数が五

〇三床あり、独自の看護婦養成機関をもつ総合病院です。

また、現在同病院では今年七月より新築工事を開始し、一部九階建になり、昭和六十二年三月頃に完成する予定になってお



上段左から、
中段左から、石崎さん、林さん、石橋さん、今野さん、信賢婦長さん
下段左から、
太田さん、高桑さん、佐藤さん、
垂水先生

透析歴十年の横顔

これからもお元気で

- ① 透析開始日
- ② 透析病院名

①昭和47年10月3日
②日鋼記念病院



五百島 制也さん

今年の定期総会で規約が改正され、透析歴十年の会員に記念品を贈ることになりました。
本年は次の皆さんです。近況などをお聞きしましたのでご紹介します。

①昭和49年4月13日



森田 みや子さん

五百島さんに十年目を迎えた頃の感想を伺うと「十年目を迎えたのはベッドの上ではありましたが、腎移植が成功し、十年振り尿が出た喜びで一杯でした」と話され、現在は経過も良好で仕事に家族サービスに大忙しとのことでした。

ります。
透析室は昭和五十一年に開設され年々患者が増える為に、病室三部屋を改良し、CD12、六台、SR12、二台、UFC、四台、レディー、一台が設置され昼間十三台、夜間六台が運転されています。
スタッフは、医師一名、看護婦十名、助手二名が従事し、毎年勤務交替があり、約半日が交代します。新しい看護



透析室

婦さんが配属されると機械操作や穿刺、返血介助などの日常業務

務に慣れるまでの間大変のようです。
透析患者は現在三十三名で、その内六名が、昼働き夜間透析を行っており、透析歴最長者は、石川信一さんで十二年になります。大半の患者は二、五年目で年齢は十五才、七十六才までおり、伊達市はもちろんのこと、洞爺村、遠くは長万部から、ほとんどの人が元気に通院しています。

室蘭地方腎友会に入会したのは、昭和五十六年頃で現在、十二名が会員になっており、今後とも会員を増やし、腎友会の皆さんと、末永くおつき合いです。行きたいと思っておりますので、今後ともよろしく願います。

② 沢山クリニック
電話でインタビューすると、「透析治療を受け始めた頃には十年も続けられるとは夢にも思いませんでした。これも先生をはじめ病院の皆様のお力はもとより、家族の励ましのお陰です」と感想を話された。



中島啓子さん

① 昭和49年7月18日

② 日鋼記念病院

当会の結成当時の会員でもある中島さんは「私が透析を始めたころは十人にも満たなかった患者が、今では百人以上にも……」と十年の長さを語って

いました。



佐藤会長から小倉キ工さんへ

① 昭和48年7月28日

② 日鋼記念病院

人柄の良さから他の患者から「おかあさん」と呼ばれていたこともある小倉さん。会長から「これからの十年も頑張ってください」と記念品を渡されて「十年長生きさせてもらいました」とニコリ。

腎バンクにご協力を!

(財) 北海道腎臓バンク

〒060 札幌市中央区北一条西七丁目

(おおわだビル2F)

☎ (011) 261-2033

楽しかった

レクリエーション

睦会

新日鉄病院

新日鉄病院「睦会」のレクリエーションが、七月一日(日)、篠原観魚園で行なわれました。

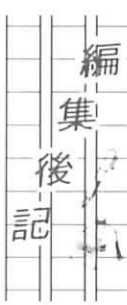
早朝から雲一つない最高の天気に恵まれ(これも日頃の行ないが良いから?) 婦長さんをはじめスタッフの方々、患者、家族を合せて三十三名が参加し、早速マイクロスバスに乗り込み、目的地へ向った。

一杯釣った魚はすぐにフライ刺身、あら汁に早がわりして胃の中へ……。また、カラオケをバックに、日頃は聞かれない婦長さんの美声も飛び出し、「睦会の専属歌手も!」右手に「酌ハイ」左手に「おでん」をいそがしそうにほうばる人などが出だし、あちこ



大きいのが釣れたよー。

ちからは笑いが出る中、最後にお楽しみ会の抽選会を終え、日頃の苦しみを忘れ、今日一日は大変楽しい時間を過ごしました。



○今号から機関紙担当になりました。なにしろ未試験なので戸惑いが多いと思いますがよろしくお願い致します。(木田)

○担当者が変わると自分の特徴を出したがるものですが、私も例外に漏れず、文字を大きくし五段にしてみました。いかがでしょうか? (合田)

○これからも、新しい情報を掲載し、よりよいものにして行きたいと思っておりますので、ご協力をお願い致します。(佐藤道)